

1. 指導にあたって

①題材について

高学年の児童は、いじめはいけない。差別や偏見は間違っているということは知識として分かっている。しかしながら、自分自身で物事の善悪を考えたり、正しい判断ができたとしても、自分一人だとそれを行動に移すことができる児童は決して多くはないだろう。人間には、誰でも周りの目を気にしたり、周りに流されたりしてしまう心の弱さがあるからだ。そして、高学年という時期は、そういった意識が特に始まっていく頃であろう。

資料には、いじめをする子、いじめられる子、そしてそのいじめを見て見ぬふりをするクラスのみなどという「いじめの構造」がそのまま分かりやすい形で書かれている。主人公の「わたし」は、いじめを認識しながらも、みんなと同じように行動している方が楽だからという理由で、一緒にいじめに加担してしまう心の弱さをもっている。しかしながら、資料の中には「泣き虫」とあだ名をつけられた勇氣君が、いじめっ子グループやクラスのみんなのひきょうな行動に対して、たった一人で泣きながら立ち向かっていく場面がある。この場面の勇氣君の言動を通して、不公正な言動のひきょうさや、正義の実現に向けた意志の貴重さに気付くことができる。

授業では、いじめっ子グループのトオル君たちを中心にしながらも、クラスのみんないじめの傍観者になり、いじめに加担している状況下で、みんなと同じように鼻と口を押さえて藤井君のそばをさっと通り過ぎていく主人公の「わたし」の心の弱さ、「みんな、みんな、ひきょう者だ!」という勇氣君の言葉が自分にも向けられていると気付いた時の「わたし」の気持ち、そして最後に「わたし」が涙した理由と涙にこめられた気持ちについて考える時間を十分に保障する。

児童には、資料を通して不公正な態度や傍観者的態度の是非について、自分だったらという立場で、真剣に考えさせていくことで自己啓発力を高め、一人一人が正しいことを正しいと主張できる行動力を育てることができると考える。

②留意点

運動会などの大きな行事を終えて、児童が落ち着いて日常生活を送ることができるようになってきた中で授業を仕組んだ。この時期には、児童の人間関係が少しずつ構築され始めるが、一方で目標を見失い学級内での衝突やトラブルも出てくる頃である。大きな行事を終えた後の高学年児童の生活には、アンテナを高く張ってその生活を見守るように注意したい。いじめを生まないようにするためにも、特に休み時間や給食時間、掃除時間などに配慮しながら授業時間以外の場面における児童理解が必要である。

授業前には、学校で行っている教育相談やいじめに関するアンケート調査などを活用し、児童と面談を行い、児童が日頃抱えている悩みや不安をつかんでおくと、いじめの未然防止のためにも、より効果的である。これまでに、いじめた経験、いじめられた経験、傍観者になった経験などはないか実態把握をしたり、日常生活での児童の人間関係（力関係）や言葉づかい（呼び捨て、あだ名、とげとげ言葉）などをおさえたりすることで、より効果的な指導につなげることができる。

授業後には、道徳に関わらせて学級活動を仕組むことで、児童から現在の自分たちの学級に対する素直な思いを引き出しやすくなる。「学級目標実現に向けての中間の振り返り」という議題で、今の自分たちの生活やクラスの立ち位置に目を向けさせたり、自分は今後どんなことを大切にしていきたいか一人一人に願いをもたせたりすることもできる。そして、その中で出てきた意見に関してはその後も学級の財産になるので、道徳の授業に関わらせて学級のあゆみとして掲示しておくといよい。「いじめは絶対に許さない」という担任からのメッセージだけでなく、誰もが願いをもって安心して生活できるようなクラスにしたいというみんなの願いを掲示しておくことが、いじめを生まない学級づくりにつながっていくと考える。

2. 本時のねらい

だれに対しても公正・公平に接することの大切さに気付き、正しいことを言おうとする心情を育てる。

3. 学習展開

	教師の働きかけと予想される児童の反応	指導・援助
導入	<p>1. 資料『泣き虫』への導入を図る。</p> <p>○今日は『泣き虫』というお話です。主人公は「わたし」です。わたしのクラスには、いじめられっ子の藤井君、そしてその藤井君をいじているトオル君たちがいます。今日は「わたし」の気持ちについて考えていきましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公のクラスの「いじめっ子」「いじめられっ子」「見て見ぬふりをする子」という登場人物の関係が分かるように図式化して説明する。 ・主人公「わたし」の気持ちについて考えていくことを確認し資料を読む。
展開前段	<p>2. 資料「泣き虫」を読んで話し合う。</p> <p>○藤井君のそばを、鼻と口を押さえて通り過ぎていきながら「わたし」は心の中でどんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんなことをして藤井君ごめんね。 ・本当はこんなことしたくないけど仕方がないんだ。 ・ここで言ったらみんなから何を言われるだろう。 ・藤井君、勇気が出なくてごめん。 <p>○勇気君が「みんな、みんな、ひきょう者だ！」と泣いて訴えたとき、「わたし」は心の中でどんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勇気君は味方がだれもいなくても、正しいと思ったことを言えてすごい。 ・藤井君、ぼくも自分のことだけ考えているひきょう者だった。 ・みんなと同じように行動してしまっていた自分がはずかしい。 <p>◎二人のやりとりを見ていた『わたし』が、涙を流したのはなぜでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで藤井君にひどいことをしてきた。 ・いけないことだと分かっていたのに、自分がいじめられたくないからみんなと同じように藤井君をいじめていた自分は、ひきょう者で情けなかった。 ・自分は勇気君のように、自分一人でも「いけないことはいけない」とはっきり言えなかったから悔しかった。 ・今までのような自分ではいたくないという気持ちがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も含めたクラスのみんなが、藤井君のそばを通る時は、同じ行動をしているという状況を押さえさせる。 ・自分の行動は藤井君を傷つけると分かっているながらも、勇気が出せずにみんなと同じように行動してしまう「わたし」の心の弱さに十分に共感させる。 ・勇気君の行動に意見が偏った場合は、『みんな、みんな、ひきょう者だ!』というのは中心になっていじめていたトオル君たちのことだよ。『わたし』には関係ないよね。』と問い返し、勇気君の言葉が自分にも向けられていると受け止める「わたし」の気持ちについても考えられるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇深めの発問 「わたし」が流した涙には、どんな気持ちがかめられているのでしょうか。</p> </div> <div style="border: 3px double black; padding: 5px;"> <p>人権教育の観点 【自己啓発力】 ひきょうと気付いていながら、みんなと同じように行動していた自分もひきょう者であり、みんなに流されてしまった「わたし」の後悔と反省の気持ちを感じている。 【そのための手立て】 涙を流した理由と、涙にこめられた気持ちについてじっくり考えさせる。</p> </div>
展開後段	<p>3. 勇気君に手紙を書き、生活を振り返る。</p> <p>○勇気君のように勇気を出して正しいと思ったことを言えたことや言えなかったことはありませんか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・勇気君に手紙を書かせながら、公正・公平な心が自分の中にあるかどうか自分を見つめ今後どんな自分になりたいか考えて書かせる。
終末	<p>4. 教師の説話を聞く。</p>	

4. 考察

児童の振り返りより

いじめをしている人たちにこわくても勇気を出して自分の思いを言ったのは、本当にすごいと思いました。私は自分の思いを言うのが少しこわいです。けど、勇気を出して言うことは大切ななあと感じました。自分の思いを言うことは、人にとっても、自分にとっても大切だと思いました。私は、このお話から大切なことをたくさん学びました。

あの時、勇気君が言った「みんな、みんな、ひきょう者だ！」の言葉を聞いた時に、すごいなと私は思いました。私だったら藤井君には申し訳ないけれど、自分のことを思うと、正しいことを言うのはいいけれど、逆に私がいじめられたらいやなので、言わなかったと思います。勇気君は私と同じ気持ちだったと思います。でも勇気君は、藤井君のことを思ったからこそ、ああいう行動ができたのだと思います。私も、勇気君のような思いやりのある人になりたいです。

ぼくは、前にいじめられたことがあります。また、いじめられた子を見たことがあります。そのいじめを見て、自分には関係ないと思ってずっと見ていました。でもあの時、いじめをやめようと言っていけばよかったと今は思います。勇気をもてない自分から、勇気をもてる自分になり、いじめを止められる自分になりたいし、仲間の気持ちを考えて行動できる自分になりたいです。

私は勇気を出して、正しいことをみんなに教えてあげた勇気君を見習いたいです。私にはまだ一人だといやだとか、思ってしまうことがあるので、勇気君のように正しいと思ったことをやっていきたいです。勇気君のように、みんなのために流す涙はいいと思います。今、クラスにいじめはないけど、これからもまちがっていることをしている仲間がいたら、「まちがっているよ。」と教えてあげたいです。自分一人でも、みんなを正しい方向に導いていける勇気君のような人に私もなりたいたいです。

児童の振り返りの言葉には、「勇気君はすごい。かっこいい。」「自分も勇気君のようにになりたい。」「たった一人でもいじめを止める勇気をもちたい。」というものが多かった。しかしながら、現実と同じような状況下に自分が置かれた場合、勇気君のように、たった一人でもいじめつ子に立ち向かっていく勇気やクラスみんなに立ち向かっていく行動力とはそう簡単にもてるものではないだろう。勇気君へお手紙を書こうという方法だったために、こうした児童の振り返りになってしまったが、現在やこれまでの自分を見つめさせるような方法をさらに工夫できるとよかった。

本時、最も考えさせたかったのは「ひきょうと気付いていながら、みんなと同じように行動していた自分もひきょう者であり、みんなに流されてしまった主人公のわたしの後悔と反省の気持ち」である。授業の中では、そこが十分に押さえられていなかったため、翌日の朝の会で、いじめを生まない学級にしていくためにはどうすることが大切なのかを、もう一度みんなで考える時間をとった。そこで、一人の児童の振り返りを紹介し、最後に担任としての学級への願いを語った。

私は勇気君がすごいと思いました。私だったら絶対できなかつたと思います。とっても勇気があるし、自分がいじめられるかもしれないのに、行動していて見習いたいです。私がそこにいたらトオル君たちといっしょになっていたと思います。これからは勇気君みたいに、勇気をもって自分が正しいと信じた行動をしていきたいです。もしも勇気が出なくても、いじめられている子の気持ちを考えて行動して、みんなにつられないようにしたいです。

「授業を通して先生がみんなに一番考えてほしかったのは、周りに流されない勇気をもつこと。クラスの仲間がいじめをしても、自分だけはしないぞと正しく判断ができる勇気をこれからみんなにはもってほしい。困っている仲間を放っておかない学級。一人ぼっちの子をつくらない学級。そして、学級目標にあるように仲間想いの行動でいっぱい学級。先生は、そんな学級をこれからもみんなと一緒につくっていきたくて思っています。」

「正しいことを言う」という場面は、いじめに限らず様々ある。そうした場において、意図的に本時の価値観を想起させ、行動力にまで高めていきたい。